3-2. 風水害時にとるべき行動を考える！

1 風水害時の避難を考えよう！

この冊子のほか、インターネットでも各種ハザードマップが確認できます。

【堺市ハザードマップ】　【堺市e-地図帳】

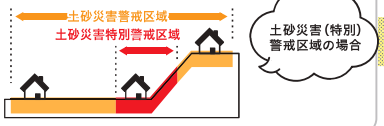
Step1. 自分は避難が必要？

内水、洪水、土砂災害、高潮ハザードマップを参考に、自分は避難が必要かについて、以下のフローチャートで確認してみましょう。

1 内水、洪水、土砂災害、高潮ハザードマップを見て、自宅や職場のある場所に色が塗られていますか？

- いいえ → **外出せずに屋内にとどまる**
  想定外の事態も考えられます。周囲の状況に気を配り、テレビなどで情報を収集しましょう。
- はい ↓

2 土砂災害の危険箇所に入っていますか？（土砂災害のみ）



土砂災害（特別）警戒区域の場合

- はい → **立退き避難**
  自宅以外の場所へ避難
  （親戚、知人宅、小学校などの避難場所へ）



  ※より安全のため、早めに浸水想定区域外・土砂災害の危険箇所の区域外へ
- いいえ ↓

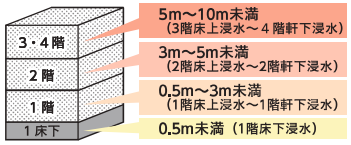
3 家屋倒壊等氾濫想定区域・木造家屋が流出する危険性のある区域に入っていますか？（洪水のみ）



流速が速く木造家屋が倒壊したり、地面が削られ家屋が建物ごと崩落するおそれがあります。

- はい → **立退き避難**
  自宅以外の場所へ避難
  （親戚、知人宅、小学校などの避難場所へ）
  ※より安全のため、早めに浸水想定区域外・土砂災害の危険箇所の区域外へ
- いいえ ↓

4 住んでいる場所は、想定される浸水の深さより低い場所ですか？（共通）



- はい（低い） → **緊急安全確保**
  避難が遅れた場合は、無理して遠くへ向かわず、近隣のマンションなど、より高い場所へ避難しましょう。

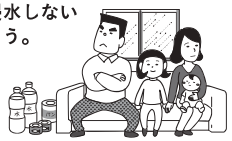


- いいえ（高い） ↓

5 浸水が長引いて家にいるには問題がある。水や食料などの蓄えが十分ではない。（共通）



- はい → **屋内安全確保**
  自宅の上階など、浸水しない場所に避難しましょう。



- いいえ

もしも避難が遅れた場合は…

Step2. 避難のタイミングはいつ？

風水害時の避難のタイミングを考える上で、警戒レベルを覚えておきましょう。警戒レベルは、災害発生のおそれの高まりに応じて、5段階が設定されています。より警戒レベルの高い情報ほど、危険が迫っていることを知らせるものです。自ら情報を収集し、自主的避難を心掛けましょう。

	経過（例）	警戒レベル		とるべき行動
低	気象状況の悪化	警戒レベル１ 早期注意情報（気象庁）		情報収集し、避難行動を確認！
		警戒レベル２ 大雨・洪水注意報（気象庁）		
緊急度	災害発生のおそれあり	警戒レベル３ 高齢者等避難（堺市）		危険な場所から高齢者等は避難！ （※避難に時間のかかる高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児などのいる家庭の方は、避難をしてください。）
	災害発生の危険性が高まる	警戒レベル４ 避難指示（堺市）		危険な場所から全員避難！！
	〈警戒レベル４までに必ず避難！〉			
高	災害発生	警戒レベル５ 緊急安全確保		命の危険　直ちに安全確保！

※災害の状況を確実に把握できるものではないなどの理由から、警戒レベル５は必ず発令される情報ではありません。警戒レベル４までに必ず避難してください。

キキクルを確認しよう！

キキクル　検索

キキクルは、大雨による災害発生の危険度の高まりを地図上で確認できる「危険度分布」の愛称です。
「危険度分布」は、大雨による災害の危険度を色分けして地図上にリアルタイム表示されます。気象庁ホームページやテレビなどで確認することができます。

